

# 会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">会 議</div> ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	—
		決裁期日	令和2年8月5日
名 称	令和2年度 第1回安平町未来創生委員会		
日 時	令和2年8月3日(月) 午前・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">午後</span> 3時00分～4時50分		
場 所	安平町役場総合庁舎(第1会議室)		
出席者	安 平 町 (政策推進課) 渡邊課長、木村課長補佐、笹山主査 (総務課 復興・生活再建支援室) 柳原課長補佐 委 員 未来創生委員会委員・外部有識者13名		
会議概要	<p><b>1 開会(進行: 渡邊政策推進課長)</b>          ◇過半数の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p><b>2 委員長挨拶</b>          ◇本日は、「安平町総合計画」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況の確認等が主な案件となるため、忌憚の無いご意見を願う。</p> <p><b>3 議事</b></p> <p>(1) 第2次安平町総合計画 中期基本計画の進行状況について【資料1】</p> <p>1. 第2次安平町総合計画 中期基本計画(説明: 政策推進課)          ◇令和2年12月に策定した総合計画中期基本計画の令和元年度分の成果指標について整理したものであり、全体105本の指標のうち、達成は27本、現状値以上・目標値未満が44本、現状値未満が34本という結果となっている。          ◇今後、令和4年度に向けて徐々に達成割合が増加するものとする。</p> <p>2. 安平町復興まちづくり計画(説明: 総務課)          ◇復興まちづくり計画に掲載する事業の進行管理を整理しているところ。          ◇全体で93%が着手済み、7%が未着手ということもあり、計画が進みつつあることが伺える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>&lt;外部有識者&gt; 防災キャンプについて            防災キャンプでは具体的にどのようなことを実施しているか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>&lt;総務課&gt;            公民館を活用しながら、小学生を対象として行っているものであり、段ボールベッドの組み立てなどの避難所体験を経験し、率先して動けるように防災訓練もかねて行うキャンプである。学校授業ではなく、公民館事業・社会教育事業の一環として行われている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>&lt;委員&gt; 仮設住宅について            仮設住宅の期限は延長することはあるのか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>&lt;総務課&gt;            延長はしない予定。10月末・11月21日それぞれを期限とする方がいるため、そこが期限となる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>&lt;委員&gt;            現在、仮設住宅にはどの程度の方が残っているのか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>&lt;総務課&gt;            概ね転居先が決まっている方などもいるが、約90世帯が住まわれているところ。</p> </div>		

<委員>

仮設店舗の場合は、何年まで使うことができるのか。

<政策推進課>

無償での使用期間は3年間。その後は有償での利用が可能と聞いている。

(2) 第1期安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略について【資料2】

(説明：政策推進課)

◇令和元年度分の総合戦略について整理を行い、分野別KPIとしては、87.6%が達成見込み・改善中であり、一定程度の成果があったところ。震災以降の人口減少が顕著であったが、様々な町の魅力化を進めてきたことから「概ね順調に進んでいる」と評価している。

◇令和元年度に地方創生推進交付金を活用した2事業について評価・検証を行っている。

<委員>

道の駅は7月に来場者数100万人を突破しているところ。無料パブリシティで取り上げられたことが大きな要因でもある。新型コロナウイルス感染拡大の状況により、4月以降は来客数が思ったより伸びていない状況にある。

<委員>

昨年実施してきたはしご酒イベントは新型コロナウイルスの影響で全く実施できていない状況。復興ボランティアセンターとして、残された期間の中でどのように対応していけるかが課題と認識している。

そのほか、子ども達の居場所として、プレーパーク・遊育を浸透させるため、アプローチしていくことも必要という声も出ているところ。

<委員>

菜の花イベントに関しては新型コロナウイルスの影響で中止となった。来年度できるかわからないが、JRと連携をしながら実施していければと考える。  
日本で一番世界に近いまちプロジェクトにおいて、若年層の転入増加が図られていないという課題があるが、総合計画KPIでは令和元年度末で7世帯19名の子育て世代の転入者数がある。この方達が何をきっかけに転入しているかなどの分析はしているか。

<政策推進課>

全てを分析できてはいないが、住宅を建てる関係で転入されていることが大半を占めている。少しでも若年層・子育て世代を獲得していくというのは町の方向性でもある。また、子ども園に魅力を感じ、転入する方もいる。

<委員>

子育てに強いまちを掲げることにより、子育て世帯の人口を獲得しようというのは根幹と考える。情報発信というような漠然としたものではなく、転入者などの深堀をしていくことも必要と考える。

<委員>

テレワークなどが浸透してきている中で、首都圏の子育て世代への営業・働きかけは非常に重要と考える。このあたりのPR活動はどの程度行っていくのか。

<政策推進課>

リモートワークやワーケーションと地方への移住について、現在庁舎内でも議論をしているところ。今年度は、コロナ感染症の関係もあり、移住に関するニーズ調査も行っていく予定。

転入転出の多い苫小牧市・千歳市や首都圏について、ターゲットも異なることから、しっかりとターゲット設定を行いながらプロモーションをかけていく必要があると認識している。

<外部有識者>

リモートワークが定着してくると、町の魅力を訴えやすくなっていく。

「世界に一番近い」という部分で、キャッチコピーがいまいち保護者に伝わっていない可能性もある。

<政策推進課>

国際空港である新千歳空港に近いという点、また、子どもが成長していく過程の中で、広い視野・世界を持つことができる教育という点で「世界に一番近いまち」としているところ。表現に関しては、庁舎内でも議論・協議を深めていければと考えている。

<委員>

子ども園に関してはPRはが重要。現状40～50歳代になると、子どもの送り迎えに時間を割かれてしまう。それに合わせたJR・バスの時間帯がないため、引っ越す方もいるかと思われる。高校生が自力で通うことができるような、早朝の運行とか、そのような働きかけも重要ではないかと考える。

<政策推進課>

公共交通の部分に関しては、これまでも様々ご意見をいただいているところ。追分地区からは札幌方面に通学できるが、早来地区からは札幌方面へ通学するには難しいところ。課題認識はしているが、経費との兼ね合いもあるところ。

<委員>

富岡地区に住む高校生は北町まで自転車で移動してからバスに乗る必要がある。冬場などもあるため町バスなどでの対応はできないものか。

<政策推進課>

状況について、後程改めて確認させていただきたい。

### (3) 第1期安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略について【資料3】

#### 1. 次期安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けて

(説明：政策推進課)

◇策定趣旨、国や道の動向について説明。安平町では、閣議決定された「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案し、安平町の地方創生の充実と強化に向け、切れ目ない取組みを進めるため、「第2期安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定していく。

#### 2. 第1期安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗評価・検証について

(説明：政策推進課)

◇平成27年から令和2年までの安平町の総合戦略について進捗評価・検証を行っているところ。  
◇全体としては、87%が達成及び改善中となっており、地方創生関連の取組みも積極的に進んでいることから、「概ね順調に進んでいる」と評価をしている。

#### 3. 第2期総合戦略に係る人口の現状と推計について (説明：政策推進課)

◇現行の人口ビジョンと平成30年3月に社人研が公表した人口推計を比較しながら、人口の推移について説明。  
◇今後将来人口展望について作成を行っていく。

<委員>

◇昼夜間人口比率が高いという点において、安平町は町外からの通勤者が多いということで、これまで「町外に居住する町内企業従業員の移住・定住数」をKPIとして設定しているが、この5年間で実績は無い状況である。この間アイリスタウンでは多くの住宅が建設されているが、そういった部分の数字を掴んでいないということか。また、KPI達成に向けてしっかりと進めていただきたい。

◇「子育てへの不安・負担を感じる保護者の割合」が前回より10%程度増えてしまっている要因はなにか。

◇全体を通し、これまでに総合計画や総合戦略の策定審議にあたって意見させてもらっている。答申書の委員意見等で残っているが、委員意見に対するその後の議論やフォローアップが無いように感じる。

また、計画策定にあたっては、「和暦」「西暦」の併記をお願いしたい。

<政策推進課>

- ◇アイリスタウンについては、町で分譲地販売をしているため、どこに勤めているかなどの情報把握はしているところ。本KPIの趣旨は、昼夜間人口比率が高い当町の強みを活かし、町外に居住する町内企業従業員の移住定住を促すというものであり、これまでに企業側に意向調査等を行いながら検討を進めてきたが、震災もありストップしている経過があるため、今後実施に向けて協議を進めていく。
- ◇子育てへの不安・負担に関しては、病気や発育・発達に関する不安を抱えているという理由の割合が上位を占めているということを確認している。一方で、費用負担を求める割合は減少しているということで、医療費や保育料の無償化などにより減少したものとする。
- ◇意見のフォローアップについては、次期戦略策定に向け、検討・対応していければと思う。

<外部有識者>

町民健康寿命の延伸を計るのに介護認定率が使われているが、近年認定基準が厳しくなっている傾向があり、町民の健康寿命を延ばしているとは言えないかもしれない。については、介護予防事業の参加者数等を設定するほうが良いと考える。

<政策推進課>

設定当時の状況と変わってきているところもあるため、次期戦略の作成時には反映を含めて検討していければと思う。

<委員>

介護予防事業に関し、ショッピングリハビリという事業を町に提案させていただいた経過があったが、なかなかマッチングしなかった。ただ、民間だけでは難しい面もあるので、そういった事業も展開していければと考える。

#### 4 その他

- ◇次回以降は、第2期総合戦略の策定に向けて議論をいただく。
- ◇次回未来創生委員会は、9月頃に開催予定。

#### 5 閉会

以上、終了。(16:50)